

# 植木センターだより

令和7年 第2号 (Vol.153)



ホンコンエンシス

ホンコンエンシスは、常緑ヤマボウシの品種の一つで、ミズキ科ミズキ属の常緑小高木です。

ヤマボウシは、日本の沖縄、九州、本州にも自生する樹木ですが、ホンコンエンシスは中国南部が原産地となっています。

ホンコンエンシスの葉は光沢感があり、色彩も美しいのが特徴です。花の開花は6月頃で、花持ちがよく、長い間花が楽しめます。

## 目次

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 2025年春期の県内植木市場における取引動向  | 1 |
| トピックス（新規調査課題）           | 3 |
| 緑化木の主要害虫 No.38（クロスジカギバ） | 5 |

# 2025年春期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは1986年から県内の植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、2008年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は本年春期の取引動向の概要について紹介します。

## 1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

近年の全体取引量は、2010年以降減少傾向が続き、2016・2017年は増加に転じたものの、翌年から再び減少傾向となり、今期も減少しました。

全体では前年同期（約8.7万本）から減少し、8.1万本で、前年同期比は93%となりました。用途別では、一般植木は前年同期比104%、株・玉物は84%、生垣用樹は100%で、一般植木は増加、株・玉物は減少し、生垣用樹は前年と同程度でした。

## 2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

### (1) 一般植木（12品目）

一般植木の取引量は約2.7万本で、前年同期（2.6万本）より約0.1万本増加しました。2008年代後半には4万本程度まで減少し、最近では3万本前後の取引量となっています。

取引量の多い品目は、自然形ではカエデ類が多く、続いてキンモクセイ、ツバキ、ヒバ類で、昨年からはカエデ、キンモクセイ、ヒバ類は増加し、ツバキは減少しました。仕立物ではイヌツゲが増加したものの、全体的に低調のままで減少傾向でした。

### (2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約3.7万本で、前年同期（4.4万本）より約0.7万本減少し、下げ止まりの状況かと思われます。

株・玉物は、サツキ、ツツジ類、イヌツゲで約99%を占めています。

### (3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約1.7万本で、前年同期（1.7万本）と同程度で推移しています。

取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、生垣用樹の約87%を占めます。続いてマサキ、カイヅカイブキでいずれも減少傾向でした。

## 3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

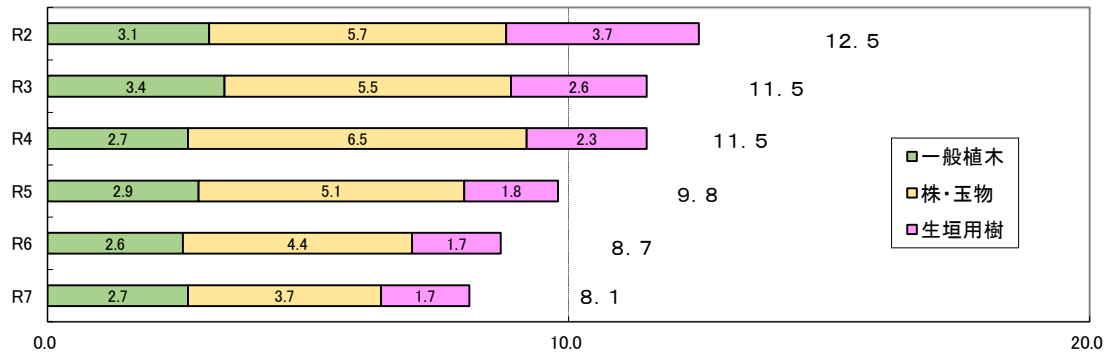
追加樹種を含めた取引上位10品目では、前年度はサツキとオタフクナンテンが上位を占めていましたが、今期は、ドウダンツツジが増加して順位を上げ、一方、ツツジ類、オタフクナンテンが減少し、順位を落としました。全体的には少量、多品種で推移しています。

＊調査市場＊

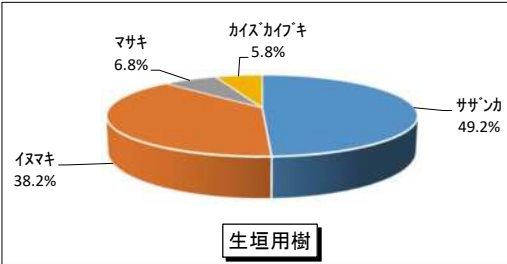
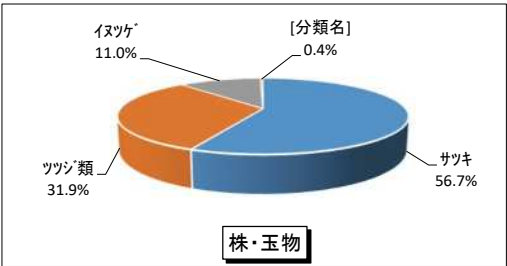
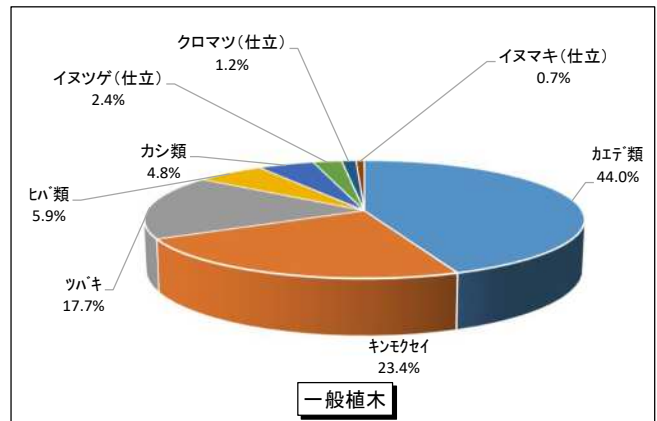
農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）

矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）

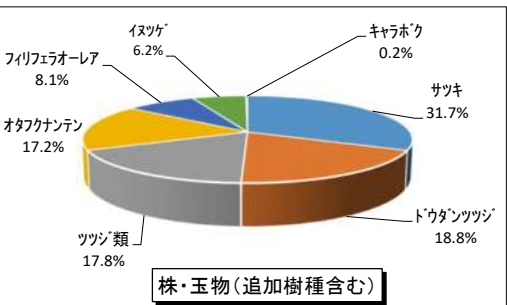
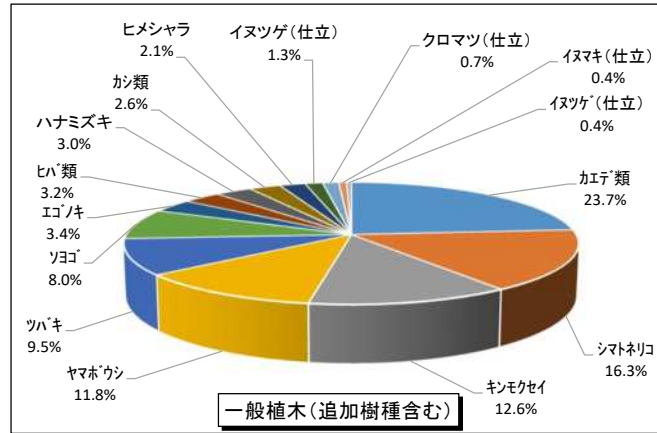
図一 春期取引量の推移（単位：万本）



図二 春期取引量の区分別構成比（％）



図三 春期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比（％）



表一 春期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

| 順位 | 令和5年     |    |     | 令和6年     |    |     | 令和7年     |    |     |
|----|----------|----|-----|----------|----|-----|----------|----|-----|
|    | 品名       | 区分 | 前期比 | 品名       | 区分 | 前期比 | 品名       | 区分 | 前期比 |
| 1  | サツキ      | 株  | ... | サツキ      | 株  | ... | サツキ      | 株  | ... |
| 2  | ツツジ類     | 株  | ↘   | オタフクナンテン | 株  | ... | ドウタンツツジ  | 株  | ↑   |
| 3  | サザンカ     | 生  | ... | ツツジ類     | 生  | ... | カエデ類     | 一  | ... |
| 4  | カエデ類     | 一  | ... | カエデ類     | 一  | ... | ツツジ類     | 株  | ... |
| 5  | ドウタンツツジ  | 株  | ... | シマトネリコ   | 一  | ... | オタフクナンテン | 株  | ... |
| 6  | オタフクナンテン | 株  | ↘   | ドウタンツツジ  | 株  | ↘   | サザンカ     | 生  | ... |
| 7  | イヌツゲ     | 株  | ... | イヌツゲ     | 株  | ↘   | シマトネリコ   | 一  | ... |
| 8  | シマトネリコ   | 一  | ↓   | サザンカ     | 生  | ↓   | キンモクセイ   | 一  | ... |
| 9  | ヤマボウシ    | 一  | ... | イヌマキ     | 生  | ↑   | イヌマキ     | 生  | ... |
| 10 | キンモクセイ   | 一  | ↑   | キンモクセイ   | 一  | ... | ヤマボウシ    | 一  | ... |

・前期比単位 ...: ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満  
↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし

・区分 一: 一般植木 株: 株・玉物 生: 生垣用樹

## トピックス

愛知県植木センターでは、植木生産の効率化、技術の向上などを図るため、調査研究を行っており、令和7年度は次の3課題に取り組んでいます。

- ・老齢化・大木化した緑化木の問題点と管理方法について（令和5～7年度）
- ・移植が難しい樹種・時期等に対処する方法について（令和6～8年度）
- ・温暖化による緑化木生産への影響についての調査（令和7～9年度）

ここでは、今年度から新たに取り組んでいる課題の概要を紹介します。

### 温暖化による緑化木生産への影響についての調査 （令和7～9年度）

#### 1 目的

近年の気候変動による地球温暖化が問題となっている。このような状況の中、夏の猛暑が緑化木に与える影響について調査をする。

#### 2 調査内容

##### （1）アンケート調査

植木生産者等にアンケート調査を実施し、夏の猛暑の影響が見られる樹種（品種）、夏の猛暑の影響がみられない樹種（品種）を把握する。

##### （2）調査方法

アンケート調査の結果により、夏の猛暑による影響がみられる樹種（品種）について、植栽樹種の見直しや生産方法の改善策を探る。

##### （3）とりまとめ

#### 3 年度別計画

| 項目／年度      | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|------------|-------|-------|-------|
| アンケート調査    | ←→    |       |       |
| 影響のある樹種の調査 |       | ←→    |       |
| とりまとめ      |       |       | ←→    |



クロスジカギバ

チョウ目（鱗翅目）カギバガ科



孵化後間もない幼虫 H23.10.27 ゴモジュ



若齢幼虫 H22.4.9 ニワデマリ



卵塊

H21.10.21 サンゴジュ



成虫

H21.10.21 サンゴジュ



老齢幼虫の体色は  
変化が大きい  
右上：H21.9.14 サンゴジュ  
右中：H22.5.6 サンゴジュ  
右下：H23.5.9 サンゴジュ

左：被害状況  
H21.9.29 サンゴジュ



## 1. 発生樹種

サンゴジュ、オオデマリ、ゴモジュ、ニワデマリ、ガマズミ

## 2. 害虫の特徴（発生時期、形態等）

4月上旬に体長10mm弱の若齢幼虫が出現し、その後成長度合いが異なる幼虫が点在するようになり、5月上旬には30mmを超える老齢幼虫も現れる。

6月上旬～7月上旬には、新たに孵化したと思われる若齢幼虫が葉表に群生して葉の先端部分から葉表のみを食害する。卵は主に葉裏に卵塊として産み付けられ、孵化した幼虫は葉表に移動する。

平成21年には9月上旬～10月中旬中に中齢～老齢幼虫が多発して大きな被害を受けたが、22、23年の10月中旬に出現した幼虫はほとんど成長することなく11月下旬には見られなくなった。

若齢幼虫は全体暗褐色であるが、中齢～老齢では暗褐色や淡緑色など体色の変化が大きい。

体長は、尾状突起を含めて40mmに達する。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |

## 3. 被害の特徴

年によって発生時期や規模が大きく異なるようである。若齢時は葉表に群生して表面のみを食害するが、やや成長すると分散・点在して葉縁を食害し、時にはサンゴジュの生垣を部分的に丸坊主にするほどの被害をもたらす。

## 4. 対策

若齢幼虫の食害により、葉の先端部分が枯葉色になり目立つので、分散する前に葉ごと摘除する。